

特別なことは、何もしていません。

届けるべき新聞を、届けるべき読者のもとに、届け続ける。  
ただ、それだけのことです。

けれど、日々、同じ時刻に、同じ道を通る仕事だから、  
ささいな街の変化にも、気づくことができます。

だからこそ、わたしたちにできること。

それは、配達を通じて、

街の安心を見守ることだと思おうのです。

もしものときに、少しでも力になれるように。

街のために、そこに住む人のために、

今日も、明日も、明後日も。

わたしたちは、街の見守り隊。